

高齢者のいのちとくらし守れ

年金振込額が減っている

6月15日、4・5月分の年金が振り込まれました。振込額が減っているのです。

Aさんは、振込通知書（298,973円。前回分300,282円）を見せながら、「振り込まれた額が30万円を割った。仕事をやめるとき年金は月16万円程度。物価が上がれば年金も上がるといわれ、何とかやりくりできると思っていたが…。諸物価が急騰しているとき、この減額はひどい」と怒りを表和されました。

物価は上がっているのに、0.4%の減額

Aさんは、つぎのような「日本年金機構」からの書類も示されました。今年度の年間年金額は1,894,644円と、昨年度1,902,492円の95.8%と、大きく減っています。

| | | 令和4年4月からの 年金額 | 参考：改定前の年金額 (令和4年3月の 年金額) |
|----------------|-------|------------------|--------------------------------|
| 国民年金 (基礎年金) | 基本額 | 734,049円 | 736,974円 |
| | 支給停止額 | 0円 | 0円 |
| | 年金額 | 734,049円 | 736,974円 |
| 厚生年金 保険 | 基本額 | 1,160,595円 | 1,165,518円 |
| | 支給停止額 | 0円 | 0円 |
| | 年金額 | 1,160,595円 | 1,165,518円 |
| 合計年金額(年額) | | 1,894,644円 | 1,902,492円 |

令和4年4月分から上記のとおり年金額を改定しましたのでお知らせします。改定した年金は、令和4年6月(4,5月分)からお支払いします。「令和4年4月分からの年金額の改定」については、裏面をご覧ください。

※年金額は、賃金や物価の変動に応じて毎年度改定を行う仕組みとなっており、令和4年度の年金額は、昨年度から0.4%の減額改定となります。

令和4年5月30日

書類左側には「年金額は、賃金や物価の変動に応じて、毎年度改定を行う仕組みとなっており、令和4年度の年金額は、昨年度から0.4%の減額改定です」と記載されています。

今回の減額は、物価の変動に合わせたものでなく、18～20年度の賃金0.4%減に合わせたものです。この間の賃金の減少は安倍政権の失政によるものです。

今後、連勤の改定には、物価や賃金の低い方に合わせるだけでなく、被保険者数や平均寿命の伸び率等から計算される「マイクロライド調整」がなされ、年金額が上がらない仕組みとなっています。

高齢者への社会保障給付費

安倍政権から今に続く社会保障緊縮政策によって、高齢者の社会保障水準が低下してきています。年金給付費・老人福祉サービス給付費・高齢者医療給付費の額は、いずれも増加傾向にあります。受給者である高齢者数が増えて

います。

高齢者一人当たり社会保障給付費の推移は右表のようになっています。

高齢者一人当たり年金給付費は、2010年の年額175万5604円から、2019年の154万5302円へ、9年間で21万302円も削減されたのです。引き下げ率は12%に達していません。

| 年 | 社会保障給付費 | | うち年金給付費 | |
|------|---------|------|---------|------|
| | 千円 | % | 千円 | % |
| 2011 | 2,427 | 100 | 1,745 | 100 |
| 2012 | 2,406 | 99.2 | 1,718 | 98.5 |
| 2013 | 2,371 | 97.7 | 1,680 | 96.3 |
| 2014 | 2,307 | 95.1 | 1,618 | 92.7 |
| 2015 | 2,301 | 94.8 | 1,596 | 91.5 |
| 2016 | 2,275 | 93.7 | 1,579 | 90.5 |
| 2017 | 2,269 | 93.5 | 1,556 | 89.2 |
| 2018 | 2,272 | 93.6 | 1,552 | 88.9 |
| 2019 | 2,285 | 94.2 | 1,545 | 88.5 |

高齢者世帯の高い貧困率

高齢者のいる世帯全体では、2019年の貧困率は26.0%に達しています。およそ4軒に1軒が実質的生活保護基準（一人世帯で年収160万円）以下の所得で生活していることとなります。世帯数で664万9千世帯、高齢者数で832万6千人が貧困状態にあるのです。

生活保護受給高齢者世帯89万7千世帯と比べて見ると、生活保護受給している高齢者の7.4倍もの貧困高齢者が存在していることとなります。

さらなる高齢者いじめ

高齢者は医療費や介護をめぐる負担増にも苦しめられています。

10月から、後期高齢者医療保険で、一定の所得のある被保険者の医療費窓口負担の割合が、現在の1割負担から2割負担に2倍化されます。370万人が影響を受けます。

日本共産党は、後期高齢者医療保険での窓口負担2倍化中止法案を参議院に提出しました。

政治の転換で、高齢者に希望ある社会を

高齢者に冷たい政治では、若者も現役世代も、未来に希望を持ってません。

物価高騰の中で、高齢者に新たな苦難をもたらし、社会保障制度への国民の信頼を失わせる政治は転換することが必要です。

7月10日投票の参議院議員選挙では、日本共産党の躍進で、新たな政治への道をすすみましょう。

仕事・くらしの悩み お気軽に相談を

世の中がわかり、希望が見える「しんぶん赤旗」のご購読を

<お申し込みは>

竹村眞弓 (☎2-9317) まで